

1 旧宮崎酒造店舗兼主屋

■構造及び形式：木造一部二階建、瓦葺 ■建築年：慶應3年頃



宮崎家は明治8年(1875)に売薬と酒造を生業としていた小泉屋(松井家)から土地と建物を購入し、明治25年(1892)に宮崎酒造を創業、平成19年(2007)まで「ぼんぼこさ」という屋号で親しまれました。

小泉屋は売薬で財をなし、天明3年(1783)には酒造業も始める一方、蔵宿、滑川町年寄、肝煎、組頭などを歴任しました。更に天保5年(1834)滑川の本陣桐沢家(綿屋)が焼失した後の弘化(1844~1847)以降は小泉屋と養照寺が交代で本陣を務めました。

現在の店舗兼主屋は慶應2年(1866)の大火(養照寺焼け)直後に小泉屋によって再建されたものと考えられ、トオリニワに沿って諸室を二列に配した町屋の形式を持ち、オイとトオリニワの上部は「杵の内」と呼ばれる梁組が豪壮な景観を呈しています。正面部分は建物に残る痕跡、明治末期の写真、宮崎家当主からの聞き取り、「岩城家文書」の設計図などを基に復元されました。

3 廣野家住宅主屋

■構造及び形式：木造二階建、瓦葺 ■建築年：大正3年



この建物は深井家が堂宮大工棟梁・岩城庄之丈に依頼して建てられたもので、その後昭和初年頃に廣野家が取得しました。

入母屋造の屋根と町家風の出格子を持ちますが、内部は一軒して細部まで凝った数寄屋風の書院造です。二階の屋根は船桧(せがひ)造りで軒の出が約1.8mと深く、屋根裏には枯木(はねぎ)が入るといふ、社寺建築に見られる梁組法が用いられた特徴的な外観となっています。また、川に囲まれていることから「四川亭」と呼ばれていました。

沿革

平成12年	12月	城戸家主屋/小澤家蔵/廣野家住宅主屋医院
平成17年	6月	上記建造物が国登録有形文化財に登録
平成19年	4月	永井康雄氏(現：山形大学教授)町屋の調査を開始
平成19年	4月	旧宮崎酒造を金山彰夫氏が購入
平成21年	9月	永井康雄氏 旧宮崎酒造・城戸・廣野家を実測調査
平成21年	8月	旧宮崎酒造の外観復元完了(監修：永井康雄氏)
平成22年	4月	旧宮崎酒造・土蔵3棟が国登録有形文化財に登録
平成22年	5月	滑川宿まちなみ保存と活用の会発足
平成24年	9月	菅田家住宅の修復
平成24年	3月	富山県歴史と文化の薫るまちづくり事業に認定
平成25年	3月	廣野家住宅主屋の修復

年中行事

3月 ひなまつり

市民より提供された明治・大正・昭和のひな人形を一堂に展示

5月 端午の節句

市民より提供された武者人形やこいのぼりなどを展示

5月 春祭り・獅子舞

加島町に伝わる祭礼時の伝統的獅子舞

8月 ベトナムランタンまつり

ベトナムの世界遺産「ホイ



旧宮崎酒造衣袋蔵

■国登録有形文化財
■構造及び形式：土蔵造三階建、瓦葺
■建築年：明治期



旧宮崎酒造酒蔵

■国登録有形文化財
■構造及び形式：土蔵造二階建、瓦葺
■建築年：明治期



旧宮崎酒造麹蔵

■国登録有形文化財
■構造及び形式：土蔵造二階建、瓦葺
■建築年：明治期



2 城戸家住宅主屋

■構造及び形式：木造二階建、瓦葺 ■建築年：明治初期



城戸家は18世紀後半に神田村(じんでんむら/現上市町)から領家村に移り住み、神田屋(じんでんや)の屋号で味噌・醤油の製造販売を行い、横町を経て江戸末期、瀬羽町に店を構えました。その後、金物屋、貸し鍋、荒物屋も併せて営業していました。

現在の建物は江戸末期に建てられた住居と店、蔵が慶應2年(1866)の大火で焼失し、明治初期から中期(明治26年)に再建されたものです。建物の造りは富山における町屋の外観の特徴(コワキ、コヤネ、ガンギ)と、平面構成の特徴(トオリニワ、杵の内)を持ち、全体に良質の材や銘木を使用しています。店舗には作り付けの暖房を持っており、当時の店構えをよく残しています。さらに、採光のための小さな天窗が仏間の上に設けられています。

5 菅田家住宅主屋

■構造及び形式：木造三階建、瓦葺 ■建築年：明治初期



恋塚屋と右衛門が現れるのは臺誌に文政、町史に元治年間(江戸末期)と割に新しいのですが、水橋下砂子坂にある菅田姓の菩提寺養楽寺近くには恋塚という字名が残っています。

この建物は明治初期に建てられたと言われ、現当主が平成22年に修復を行い、往時の姿が蘇りました。特徴的な正面の上げ下げの部戸(しとみど)は近隣の建物にも見受けられますが、時代と共に部戸の前に障子、さらに格子が取り付けられています。菅田家は部戸だけという商家の古い形式を残していると言えるでしょう。

◎国登録有形文化財

菅田家住宅衣蔵

■構造及び形式：土蔵造二階建、金鼠板葺
■建築年：安政2年(1855)



会員所有・管理建造物

- 城戸家住宅主屋
- 旧宮崎酒造店舗兼主屋・麹蔵・酒蔵・衣袋蔵
- 小沢家住宅店蔵
- 菅田家住宅主屋・衣袋蔵
- 養照寺本堂・本陣
- 機原神社 本殿・拝殿
- 廣野家住宅主屋・廣野医院
- 伝統文化研究有隣庵(旧土肥家)主屋
- 滑川館本館・道貞蔵

貸室ご利用案内

旧宮崎酒造 ぼんぼこさ・伝統文化研究 有隣庵を、貸室として有料でご利用できます。

＜利用項目＞ 伝統文化研究研修会・文化講演会・親睦会

◎国登録有形文化財

◎国登録有形文化財

城戸家文書および「滑川の文化財」より

- 4月 NPO法人滑川宿まちなみ保存と活用の会設立
- 11月 富山県うるおい環境とやま賞（ひかりの賞）受賞
- 平成26年 3月 小澤家住宅店蔵屋根部、城戸家住宅主屋の修復
- 12月 旧土肥家の修復「伝統文化研究、有隣庵」と称す。
- 平成27年 3月 映画撮影ロケ地となる
- 平成28年 6月 富山テレビACTクラブ賞受賞
- 8月 田中小学校旧校舎が国登録有形文化財に登録
- 平成29年 3月 養照寺本堂、国登録有形文化財に登録
- 菅田家主屋・衣装蔵、国登録有形文化財に登録
- 有隣庵、国登録有形文化財に登録
- 滑川館本館・道具蔵、国登録有形文化財に登録
- 機原神社（本殿等4件）国登録有形文化財に登録

ふるさと滑川のまちなみを残したい

滑川市は、日本アルプスの山々を背にして富山湾に臨み、四季折々の美しい豊かな自然と風土に恵まれた地です。

江戸時代以降の旧滑川町域は、北陸街道沿いの宿場町として、また加賀藩の年貢米など当地域の物資集散の港町として大いに賑わいました。

当時の様子は、旧滑川町域に数多く残されている社寺建築や町屋や土蔵、そしてそらが作り出すすまちなみによって窺い知ることができます。

1954年（昭和29年）に、旧滑川町は周辺6村との合併を経て滑川市となりました。

1960年代からは郊外での宅地開発が盛んになり、かつて繁栄した旧滑川町域からも人口の流出がありました。

今では住民の高齢化や空き家の増加、建物の老朽化など町の空洞化が顕著になっていきます。

「NPO法人 滑川宿まちなみ保存と活用の会」は、いろいろな方々のお知恵をいただき、楽しみながら歴史的・伝統的都市景観を保存し、この地に伝えられた歴史・文化を、地域の発展へとつなげていく活動に取り組んでいます。

NPO法人 滑川宿まちなみ保存と活用の会

「アフリカ」の国並みで飾り付けられた縁で開催。県内在住のベトナム人も参加



10月 酒蔵アート

地元芸術家を中心に多彩なジャンルの作品を展示



毎月月末

土曜・日曜 骨董市

<その他の主な行事>

- ・琵琶、琴、大正琴の演奏会
- ・各種コンサート

<利用条件>

利用責任者が必要です。NPO法人滑川宿まちなみ保存と活用の会の正会員または賛助会員であること。
お申し込みは、事前の予約と打ち合わせが必要です。

お問い合わせ

NPO法人 滑川宿まちなみ保存と活用の会

<事務局> 〒936-0063 富山県滑川市瀬羽町1862

●イベント催事等担当／小森 忠

TEL：090-6275-1419 E-mail：tayu-yoshu.3to1@palette.plala.or.jp

●家屋保守管理調査担当／中野重光

TEL：076-451-6488 E-mail：iwana.1948.1952@nifty.com

●入会受付・その他／城戸拓一

TEL：080-7002-9784 E-mail：takuichikido@gmail.com

このガイドは、とやま住まいとまちづくり推進懇話会の助成を受けて作成しました。

滑川宿まちなみガイド



旧北陸街道

旧北陸街道 滑川宿まちなみマップ

駐車場 トイレ

ほたるいかに
三ツアツム 道の駅

至坪川 (熊津市方面)

岩城家かきりの建築物
●加茂社
●専称寺
●加南雪嶺神社
●義照寺
●廣野家住宅
●熊原神社

大町～中町の街並み
明治から昭和初期と見られる建築が比較的多く残る。起り(むくり)や銅板葺の庇を持つ建物が点在。路地裏にも古い建物有り。

中川河口
かつては船溜まり。左岸側は橋場と呼ばれ、高札場があった。

瀬羽町の街並み
かつて滑川銀座と呼ばれた瀬羽町には比較的大規模な商家が複数残る。路地裏にも古い建物があり、川に降りたための階段(コード)も見られる。

加積雪嶺神社御輿
岩城庄之丈と弟の喜一郎が製作したもので、滑川市指定文化財になっている。

高月町～加島町の町並み
明治から昭和初期と見られる建築や松並木、路傍には手押しポンプが残る。起り(むくり)や銅板葺の庇を持つ建物が点在。路地裏にも古い建物有り。

立山道
道の向脇に明治から昭和初期の建物が点在。

さらしや商店街
石造風の建物、看板建築などが残る。

吾妻町の五差路
板張りや石造風の建物、看板建築、映画館の上映看板なども残る。

七ヶ川
旧滑川町と浜加積村との境を流れる。

※このマップは「岩城家文書」の世界一展(滑川市立博物館)チラシ掲載マップを元に作成しました。

6 田中小学校旧校舎

■構造及び形式：木造二階建、瓦葺 ■建築年：昭和11年(1936)



田中小学校は、明治6年(1873)に滑川小学校として始まり、幾度かの校名変更を経て昭和29年(1954)に滑川市立田中小学校となりました。旧校舎は昭和11年(1936)に滑川町立田中尋常高等小学校の校舎として建てられました。往時の旧校舎は、本館、南館、北館を凹の字形に配置して、それらの間に講堂と雨天体操場を建てて各建物を廊下で繋いでいたもので、全体としては日の字型の校舎配置になっていました。内部は各室とも折上げ格天井とし、天井を支える持ち送り(ブラケット)は部屋の格式の違いによってデザインを使い分けています。貴賓室など腰壁に見られる格子状の木製パネル、幾何学模様のシャーンデリアベースや中央階段の手摺など随所に当時流行したアールデコ風の意匠が見られます。昭和22年(1947)には昭和天皇の行幸がありました。アニメ「おおかみ子どもの雨と雪」の舞台になりました。

7 伝統文化研究 有隣庵(旧土肥家住宅) 主屋

■構造及び形式：木造二階建、瓦葺 ■建築年：慶應3年



この建物の表通りに面した正面開口部から部戸が発見され、そこには「慶應三年丁卯八月製造 瀬羽町 土肥清平」という墨書がありました。これによって慶應2年(1866)の大火の翌年に建設された建物で、しかも建築年代が明確な町屋としては滑川で最古のものであることがわかりました。建て主の土肥家は「田中屋」という宿屋で、後に呉服業も営みしました。昭和になってからは売薬・製薬を生業とした種井家が所有しました。

平成25年に永井家が取得し、地域文化の研究や町並み保存の拠点として活用すべく修復工事が進められています。建物の名称は、論語の「徳不孤 必有隣」(徳は孤ならず 必ず隣有り)から名付けられました。有隣庵を始め瀬羽町一帯が平成28年4月に公開された映画「蜜のあわれ」のロケ地となりました。

8 養照寺本堂

◎国登録有形文化財

■構造及び形式：木造平屋、棧瓦葺

■建築年：大正5年（1916）



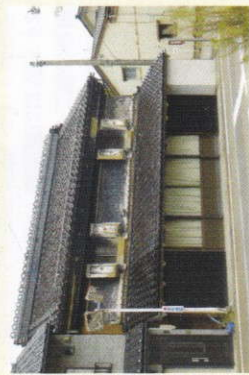
真宗大谷派に属する藤谷山養照寺は、康平2年（1059）に天台宗の道場として立山町に開かれた徳風院が始まりとされています。藩政時代は加賀藩前田家の本陣も務めた当地きっての有力寺院です。本堂、本陣、庫裏、鐘楼、門などを備えた大伽藍でしたが、天保9年（1838）の大火で焼失し、本堂再建途中の慶應2年（1866）に大工小屋から出火した「養照寺焼け」と呼ばれる大火で再び焼失しました。現在の本堂は岩城庄之文を棟梁として明治45年（1912）に再建が始まり、大正5年（1916）に一応の完成を見ました。平面は、奥を3室に仕切った内陣、その前を横長の柵内、一番手前を外陣とする典型的な真宗寺院の本堂形式です。

10 小沢家住宅店蔵

◎国登録有形文化財
「滑川の文化財」より

■構造及び形式：土蔵造二階建、瓦葺

■建築年：明治後期



小沢家は荒町で呉服商を営み屋号は「まんま」と言いました。この建物は明治時代後期、三代目万治のときに建てられ、総二階建、黒漆喰で塗られた壁に観音開き扉を持つ重厚な土蔵造りで、棟の剣型雪割瓦や、一階正面の下屋は丸味を持たせた起り（むくり）屋根になっています。「滑川町誌」には「当時木綿屋業の益々盛んなるに連れて、また深井小右衛門・菅田与左衛門・小沢万治が之を盛んにして、以て明治時代の滑川を賑やかに飾りたり（後略）」と記されており、立派な店蔵（みせぐら）が建てられた理由が伝わってきます。

12 櫛原神社本殿

◎国登録有形文化財

■構造及び形式：木造、一間社、切妻造平入り、銅板葺、正面一間向拝

■建築年：明治5年（1872）



当社は「延喜式神名帳」に記載される古社で、大宝元年（701）に現在地より2km程東の柳原の地に開闢されたと伝えられます。盛時には1000石余の社領を有し、別宮・末社・仁王門・総門・拝殿・神供殿・塔・鐘撞堂などを備えていましたが、元龜2年（1571）の上杉謙信による越中進攻の際に兵火によって悉く焼失したといえます。当地に遷ったのは「旦尾旧記」では元龜2年としますが、慶長年中（1596-1615）とするものもあります。明治期に制定された社格制度では、県社に列せられました。

現在の本殿は、明治5年（1872）に竣工したもので、大工棟梁は岩城庄之文です。総構造りで、細部に至るまで入念に製作されています。木割（設計方法）は加賀藩の大工であった松井角平の木割に準じて設計されています。脇障子などの彫刻を手掛けたのは、井波の彫刻師・田村与八郎（屋号は番匠屋）で、巧く非常に質の高いものです。

9 養照寺旧本陣

◎滑川市指定文化財（上段の間）

■構造及び形式：木造平屋、金属板葺

■建築年：天保13年（1842）頃



江戸時代の滑川には、加賀藩主が参勤交代時に宿泊・休憩するための施設である本陣が設けられていました。幕末期には養照寺と小泉屋が交代で務めました。養照寺には天保7年（1836）に加賀藩主・前田斉泰が帰国の際に休憩した時の絵図面が残っていますが、ここに描かれた建物は天保9年の大火で焼失してしまっています。本陣の再建は、岩城庄之文の祖父である庄蔵を棟梁として直ちに始まったようで、当時の設計図が「岩城家文書」に多数残されています。柱には江戸時代には庶民の伐採が禁止されていたネズコ（クロバスギ）が使われています。加賀・越中国内に建てられた本陣で、当時の状態がそのまま残されているものは他にありません。

11 滑川館本館

◎国登録有形文化財

■構造及び形式：木造二階建、瓦葺

■建築年：明治20年（1887）



敷地内には本館・道具蔵・離れの土蔵が建っています。これらの3棟は、明治から大正にかけて滑川町長や県会議員を歴任した加藤甚右衛門の邸宅として明治20年（1887）に建築されたもので、昭和15年（1940）に土肥家の所有となりました。土肥家は明治期には横町で旅人宿を営んでおり、後に樺太売薬に転じて財を成しましたが、戦後の昭和21年（1946）頃から現在地で再び旅館業を始めました。

本館の一階は、片側を廊下（元はトオリニワ）とし、それに面して諸室を2列に配します。表側に根太天井の居住室と階段室、その次は「枠の内」と呼ばれる吹き抜け空間（ロビー）と居住室、その次を階段室と座敷の鞘の間、一番奥を中庭に面する二間続きの座敷とします。二階は、表側と奥側を壁で二分して、表側には2部屋、奥側には中廊下を設けて3部屋が客室となっています。

滑川館道具蔵

■構造及び形式：土蔵造二階建、瓦葺

■建築年：明治20年（1887）



上段の間 滑川市指定文化財



上段の間を望む土匠・濡縁

櫛原神社一の鳥居

■構造及び形式：石造、明神鳥居

■建築年：安政7年（1860）



櫛原神社二の鳥居

■構造及び形式：石造、中山鳥居

■建築年：大正10年（1921）



常夜燈

滑川市指定文化財

■構造及び形式：石造

■建築年：文化12年（1815）

